

### 3. まとめ

#### 1 企業間の経済交流

##### 【調査内容】

- ・中国東北部・延辺地域には日本語が堪能な人材が多く、教育レベルも高いなどの事情を背景に日系企業が進出している。
- ・中国政府が琿春市周辺を「中国図們江区域国際協力モデル区」として承認し、当該地域の開発に積極的に関わる姿勢を示している。

##### 【今後の展開】

当該地域は、当市の企業が貿易、投資などの事業を展開する場合に検討に値する条件が整っており大きな期待が持てることから、検討材料として当市及び上越商工会議所が主催する国際ビジネス研究会など市内企業に対して情報を提供し、検討を促す。

#### 2 直江津港利用促進の可能性

##### 【調査内容】

- ① 中国東北部・琿春市周辺の企業の大半が現在、大連港を使っているが、中国政府は輸送距離や時間の面で優位なロシア・ザルビノ港を重視していることから、将来的に物流が転換され直江津港の利用促進につながる可能性が大いにある。
- ② 釜山港では、人為ミスが発生しないよう作業がオートメーション化され、安定した物流形態が整っていること、また浦項市の迎日湾新港では、ロシア極東との物流促進が図られ、港の後背地では、交通インフラも順次整備されている。

##### 【今後の展開】

- ① 当該地域の対日本貨物の直江津港利用に向け、現在新潟県等の主導により開設されている「日本海横断航路」の動向を注視するとともに、直江津港後背地における貨物の掘り起こしを進める。
- ② 釜山港におけるトランシップの信頼性は、荷主企業に対する直江津港利用促進のためのアピールポイントとしていかす。また韓国におけるロシア貨物の拡大傾向など域内の貨物動向は今後も継続収集し、直江津港の利用促進策の検討材料とする。

### **3 課題**

今回訪問した「友好都市」との間では、産業・文化・スポーツ等幅広い分野での交流を図ることを確認し、これまで関係を築いてきた。本調査では、現地情報の収集などに関してこの関係を活用することができたが、一方で企業間の経済交流を進める上では以下の課題に留意が必要である。

#### **企業ニーズの把握**

海外事業の検討にあたり、市内企業のニーズは、必ずしも「友好都市」にあるとは限らない。「友好都市」とは関係を継続しつつ、市内企業のニーズは、上越商工会議所などと協力して的確に把握したうえで、企業支援の取組検討の中で、訪問地や訪問業種を選定することが必要。

#### **情報の収集・提供**

企業が求める情報を確実にくみ取り、提供するには、「友好都市」との関係活用のみでは困難なことから、県や日本貿易振興機構（JETRO）など、海外情報の収集、蓄積、相談対応といった業務に長じた機関との日常的な協力関係を築くとともに、企業とそれら機関とをつなぎ、調整が図られる体制を整えることが必要。